

## 厚岸町のコウモリ相

近藤憲久<sup>1</sup>・宇野裕之<sup>2</sup>・芹澤裕二<sup>3</sup>・アンドレイ クラスネンコ<sup>4</sup>・濱裕人<sup>5</sup>

<sup>1</sup>根室市教育委員会根室市博物館開設準備室：〒087-0032 根室市花咲港 209 番地

<sup>2</sup>北海道環境科学研究センター道東地区野生生物室：〒085-0835 釧路市浦見 2-2-54

<sup>3</sup>道東コウモリ研究会会員：〒085-0061 釧路市芦野 2-22-17-206

<sup>4</sup>道東コウモリ研究会会員：〒087-0003 根室市明治町 2-55

<sup>5</sup>道東コウモリ研究会会員：〒085-0805 釧路市桜ヶ丘 42-11

### Faunal survey of bats in Akkeshi town , Hokkaido

Kondo N. <sup>1</sup>, H.Uno<sup>2</sup>, Y. Serizawa<sup>3</sup>, A. Krasnenko<sup>4</sup> and H.Hama<sup>5</sup>

<sup>1</sup>Preparative office of Nemuro municipal museum, Nemuro board of education:209

Hanasakiminato,Nemuro,Hakkaido 087-0032,Japan

<sup>2</sup> Eastern Hokkaido wildlife research station, Hokkaido institute of environmental sciences:2-2-54 Urami,Kushiro,Hokkaido 085-8588,Japan

<sup>3</sup>Member of Dohtoh bat research group:2-22-17-206 Asino,Kushiro,Hokkaido 085-0061,Japan

<sup>4</sup>Member of Dohtoh bat research group:2-55 Meizi,Nemuro,Hokkaido 087-0003,Japan

<sup>5</sup>Member of Dohtoh bat research group:42-11 Sakuragaoka,Kushiro,Hakkaido 085-0805,Japan

### ABSTRACT

Faunal survey of bats in Akkeshi town was carried out between May and October 2002. One hundred twenty-one bats belonged to nine species, *Myotis macrodactylus* (Temminck,1840), *M. daubentonii* (Kuhl,1819), *M. ikonnikovi* Ognev,1912, *M. frater* Allen,1923, *Eptesicus nilssonii* (Keyserling and

Blasius,1839), *Barbastella leucomelas* (Cretzschmar,1826), *Plecotus auritus* (Linnaeus,1758), *Murina leucogaster* Milne-Edwards,1872, *M. ussuriensis* Ognev,1913, and twenty unidentified bats belonged to genus *Myotis* were collected and marked with a metal bat ring before releasing. Except for the above-mentioned nine species, *Nyctalus aviator* Thomas,1911 and an unknown species called “species A” (Nemuro board of education,2001), were recognized by our observation using the bat detector. The following three species are newly recorded from this town; *M. daubentonii*, *E. nilssonii* and *M. leucogaster*. *P. auritus* is the most common species in the forest and *M. daubentonii* is the most common species along the river in Akkeshi town, respectively.

**Key words:** Bat fauna, Akkeshi town, *M. daubentonii*, *E. nilssonii*, *M. leucogaster*.

## はじめに

釧路・根室管内のコウモリ相については、断片的記載（服部，1971；吉行・遠藤，1972；阿部ほか，1994）があるに過ぎなかったが、最近、根室市教育委員会（2001）、ならびに近藤ほか（2002）によってコウモリ相の分布実態が明らかになりつつある。

これまで十分な調査が行われていない厚岸町，特に別寒辺牛湿原，および厚岸湖周辺において，カスミ網を用いる捕獲調査ならびにバットディテクターを用いた調査を行ったので，その知見を報告する。

なお，本研究は，厚岸町から「2002年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金」を受けた。

## 調査地および方法

厚岸町は、北緯  $42^{\circ} 57' - 43^{\circ} 21'$ ，東経  $144^{\circ} 34' - 145^{\circ} 01'$  に位置し、今回は、別寒辺牛湿原（国有林），厚岸湖周辺（北海道有林，以下道有林），日本製紙社有林，太田旧屯田地区（以下，太田地区）などの 17 地点を選び調査が行われた（図 1）。この地域は、標高 5–87m と比較的 low，厚岸湖（汽水）を中心とした地域である。厚岸湖には、別寒辺牛川（チャンベツ川，トライベツ川，フッポウシ川，サッテベツ川，チライカリベツ川，ピッチィ川），大別川，ホマカイ川，オッポロ川が注ぐ。

### 1. 捕獲調査

捕獲調査は、捕獲許可証 1-60 号（環境省）と捕獲許可証 143 号，146 号，147 号（北海道）によって行なわれ、捕獲は、カスミ網を用いて試みられたが、一部そのまま直接手によって行われた。カスミ網は、水面上では、高さ 5cm～175cm までの範囲に設置し、林道等では、高さ 50cm～100cm から 400cm～450cm までの範囲に設置した。網を設置している時間は、当日の日没時刻の 30 分後から 45 分～105 分であった。

捕獲された各コウモリについては、種の同定、前腕長の測定、性別、幼獣の識別および繁殖状態が調べられた後、右前腕骨の位置に標識翼帯が装着され、同日同所で放獣された。幼獣の判定は、Hutson and Racey (1999) の基準に従い、指骨の骨化状態が不完全な個体は幼獣とされ、それ以外は成獣とされた。種の同定は、阿部ほか (1994) に従い、学名は前田 (1996)、和名は前田 (1997) を参考にした。

調査は、2002 年 5 月 24 日から 10 月 12 日まで、予備調査も含め計 24 回行われた。捕獲調査地点の環境などは、表 1 の通りである。

## 2. 家屋調査

家屋のねぐら利用を知る調査（以下、家屋調査）、すなわちコウモリが利用していると想像される廃屋において、糞などの痕跡や日没後の出巢を調べる調査は、次の3地点で行なわれた。太田事業所旧車庫（図1-2）、太田旧ミンク飼育場（図1-5）および旧トライベツ小中学校（図1-17）である。また、その棲息が確認できた時は、捕獲を試み種の同定をした。

## 3. バットディテクターを用いた調査

2種のコウモリを対象に、以下の2種類のバットディテクターを用いてその反応が調べられた。1)Mini-3, Ulutra Sound Advice 社(以下, BD1), 2)D240, Pettersson 社 (以下, BD2)。対象とした種は、ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas,1911 と A コウモリ (sp.A) である。A コウモリとは、1)独特なバットディテクターの反応リズムを持ち、2)反応のピークは 20-30kHz である、3)街灯より高い位置で採餌を行う、という3つの特徴を持ち、これまで捕獲によって種が確認されていないコウモリのことである(根室市教育委員会, 2001)。

# 結果

## 1. 捕獲結果

厚岸町では、16か所(図1)で9種121個体、および20個体の未同定のホオヒゲコウモリ属 spp.*Myotis* spp.が捕獲された(表2)。捕獲結果には、カスミ網を用いたものおよび手捕りのもの全てが含まれ、さらにねぐらの前で捕獲したものも含めた。なお、カスミ網による捕獲を試みたにもかかわらず捕獲されなかった場所は、1か所(図1-15)のみであった。

### 1)河川

4か所の河川(ホマカイ, 大別, オッポロおよびトライベツ; 図1-1, 3, 10, 12)の水面上に、カスミ網を日没30分後からそれぞれ45分, 75分, 45分,

60 分間設置した。網の枚数は、4 か所で 6 枚（ホマカイ川 2 枚，大別川 2 枚，オッポロ川 1 枚およびトライベツ川 1 枚）であった。ここでは、4 種 40 個体が捕獲され、その内訳は、ドーベントンコウモリ *Myotis daubentonii* (Kuhl,1819) が 4 か所で 37 個体，モモジロコウモリ *M. macrodactylus* (Temminck,1840) が 1 か所で 1 個体，ホオヒゲコウモリ属 *Myotis* sp. が 1 か所で 1 個体，テングコウモリ *Murina leucogaster* Milne-Edwards,1872 が 1 か所で 1 個体であった。90%以上のドーベントンコウモリは、カスミ網の捕獲状況および目視状況から、水面から 15-20cm の高さを飛翔し捕獲された。

## 2)森林

林道上では、10 か所（図 1-1, 2, 4, 6, 8, 9, 10, 11, 13, 15）で捕獲が試みられ、日没 30 分後からそれぞれ 75 分～105 分間カスミ網が設置された。使用したカスミ網の枚数はのべ 52 枚であった。ここでは、8 種 82 頭が捕獲され、その内訳は、ウサギコウモリ *Plecotus auritus* (Linnaeus,1758) が 8 か所で 29 個体，ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* Ognev,1912 が 1 か所で 1 個体，ホオヒゲコウモリ属 spp. が 7 か所で 15 個体，コテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev,1913 が 6 か所で 16 個体，チチブコウモリ *Barbastella leucomelas* (Cretzschmar,1826) が 4 か所で 8 個体，カグヤコウモリ *Myotis frater* Allen,1923 が 4 か所で 10 個体，キタクビワコウモリ *Eptesicus nilssonii* (Keyserling and Blasius,1839) が 1 か所で 1 個体，ドーベントンコウモリが 1 か所で 1 個体，テングコウモリが 1 か所で 1 個体であった。なお、8 月 31 日の昼間、別寒辺牛川「カヌー出発地点」のトイレにおいて（図 1-7）、窓枠の観音開きの外蓋の裏に標識が装着されたチチブコウモリがいるのが発見され、番号を確認した後放獣された。この個体は、8 月 11 日に発見場所から約 800m 離れた別寒辺牛ピッチィ川河畔林で捕獲後放獣されたものである（図 3）。

森林のうち、国有林、道有林および日本製紙社有林についてさらに詳細に述

べる。

a. 国有林（カラマツ林）

厚岸町の北部（道々上風連大別線より北）は，別寒辺牛川流域の河畔林を除きカラマツ林が続く国有林である。その2か所（図1-4および6）でコウモリ類の調査が実施された。なお，図1-4で示した調査地においては，調査が2回行なわれた。その結果，5種27個体が捕獲され，最多被捕獲種はコテングコウモリ（9個体）で，次いでウサギコウモリ（6個体）であった。

b. 道有林（天然林）

厚岸町の南部（JR花咲線の線路より南）の厚岸湖周辺は，一部植林した天然林で道有林である。その3か所（図1-8，11および13）でコウモリ類が調査された。その結果，7種35個体が捕獲され，最多被捕獲種はウサギコウモリ（20個体）であった。

c. 日本製紙社有林（天然林）

厚岸町の西部，オッポロ川周辺は，日本製紙社有林で天然林である。その1か所（図1-10）でコウモリ類の調査が行われた。その結果，6種17個体が捕獲され，最多被捕獲種はコテングコウモリ（5個体）であった。

3) 太田防風林

太田地区（図2）は，旧太田屯田があった場所で，現在縦横に防風林と酪農家が点在する。その防風林2か所（図1-14，16）で，日没30分後からいずれも90分間カスミ網3枚を用いた捕獲が試みられた。網の枚数は2か所で3枚であった。ここでは，チチブコウモリ（4個体），ヒメホオヒゲコウモリ（1個体）およびホオヒゲコウモリ属 sp.（4個体）が捕獲された。

## 2. 家屋調査

家屋調査は、3 か所で試みられた。なお、旧トライベツ小中学校では、糞を確認出来なかったため、捕獲を試みなかった。

太田事業所旧車庫では、7月13日にカスミ網を出口に設置し捕獲を試みた。その結果、ウサギコウモリ6個体およびキタクビワコウモリ2個体が捕獲された(表2)。ウサギコウモリ6個体は全てメス個体で、そのうち3個体が下腹の膨れぐあいから妊娠していると思われた。また、他の3個体は妊娠していたかどうか判断できなかった。キタクビワコウモリ2個体は、全てオスであった。

太田旧ミンク飼育場では、ねぐらとして利用されていると思われる建物は廃屋のため出口が多数あった。そのためコウモリが飛び出す場所を特定できず、ねぐらを出てから比較的多く飛翔すると想像された隣接する中庭に、8月18日にカスミ網が仕掛られた。その結果カグヤコウモリ1個体が捕獲された(表2)。この個体はオスであった。

## 3. バットディテクター調査

Aコウモリを対象にして、街灯の多い太田地区と厚岸市街地および街灯のない別寒辺牛湿原のPF第一幹線林道基点から下茶安別線林道分岐まで(以下、PF第一幹線林道)の分布調査が行なわれた。なお、Aコウモリと思われるコウモリは、利尻島においてはキタクビワコウモリであることが判明したが(佐藤ほか, 2002)、北海道東部(以下、道東)では、捕獲による確認がまだであり、本種がキタクビワコウモリであるのか、それとも他の似た反応を持つコウモリであるかは不明のままである。

太田地区は、各酪農家の街灯を除いて3.5km×2.5kmの中に46灯の街灯がある(図2)。7月13日は、北西から南東に走る6本の道路と北東から南西に走る3本の道路(合計距離22.7km)を時速40kmの車で走行し、BD1を用いてコウモリの声が調べられた。時間は、20時30分から21時30分までであつ

た。8月23日は、最も街灯が多く設置された道道厚岸標茶線（距離2.5km）のみに限って同じ調査を実施した。時間は、21時30分から21時45分までであった。厚岸市街地地区でも、13.7kmの区間を同様の方法で走行しBDの反応が調べられた。調査日時は、7月13日と8月23日のそれぞれ21時35分から21時45分までと21時15分から21時25分までであった。PF第一幹線林道では、同じく8月23日に12.8kmの区間を同様の方法で走行し反応を調べた。時間は、20時30分から21時10分までであった。

太田地区（7月13日）は、46灯中25灯（道道厚岸標茶線31灯中17灯）で、街灯1灯に対して1個体、もしくは複数の反応があった。街灯のない場所では反応がなかった。また、太田地区の中央部を通る道道厚岸標茶線（8月23日）では、31灯中17灯の街灯で反応があった。同じく、街灯のない場所では反応がなかった。近くに街灯が設置されていないPF第一幹線林道では、1個体から発せられたと思われる反応が7か所であった。厚岸市街地地区では、7月13日に1か所、8月23日に2か所で反応を確認したのみであった。その結果を、表3に示した。なお、数値は、走行距離1kmに対するバットディテクターの反応数を示した。それによると、7月13日の太田地区が一番高く6.80であった。また、7月13日の厚岸市街地が一番低く0.07であった。

ヤマコウモリは、この地域では他のコウモリ類と比べて日没前に出巢すること（前田，1973）、大型であることなどの特徴から、捕獲に至らなくも目視調査などで識別が可能と思われる。そこで目視調査とBD2を用いての調査で、表4の結果を得た。調査地8か所中（図1-1,2,3,4,8,10,13,15）、3か所（図1-2,4,10）で、ヤマコウモリと判断できるコウモリが確認された。いずれも日没前、それぞれ2分前（太田事業所）、2分前（別寒辺牛ピッチィ川）、6分前（オッポロ1号橋）にその日初めて確認できた。

## 考察

過去に厚岸町では、チチブコウモリ（服部，1971），モモジロコウモリ，コテングコウモリ，ウサギコウモリ，カグヤコウモリ，ヒメホオヒゲコウモリおよびヤマコウモリ（近藤ほか，2002）が報告されている。今回，新たにドーベントンコウモリ，キタクピワコウモリおよびテングコウモリが捕獲された。これにより，厚岸町では合計 10 種が生息していることが明らかになった。捕獲調査でもっとも多く捕獲されたのは，森林地帯ではウサギコウモリ，河川の水面上ではドーベントンコウモリであった。以下，捕獲した種について，生息場所および分布などに関して考察を行った。

北海道のドーベントンコウモリは，前田（1985）に記載されているように北海道中央部の空知群北村以北，もしくは以東から知られ，カスミ網による捕獲においては，大木のある森林で採集されている（前田，1985；前田・川道，1991；前田ほか，1993）。しかし，上述した森林内には水面もあり，また，今回は 5 か所で 38 個体捕獲されたうち，37 個体までが水面上であった。これは，根室市でも同じであり（根室市教育委員会，2001），その後の研究で水面 15-20cm のところを飛ぶことが確認され，バズも確認された（近藤，未発表）。道東における本種の採餌は，本種の採餌は，水面上で行われていると考えられるが，採餌場所の季節変化の有無などの更なる調査が必要と思われた。

環境省が示した日本の絶滅のおそれのある野生生物においてランク「普通種」に位置づけられるモモジロコウモリは，道東地区の多くの湖沼地や河川などの水面上でその飛翔を頻繁に観察することができる（根室市教育委員会，2001；近藤ほか，2002）。しかし，厚岸町内にカスミ網を設置し，その捕獲を試みたところ，1 頭のモモジロコウモリが捕獲されただけであった。2001 年に行われた厚岸町尾幌川における調査においても 1 頭のモモジロコウモリが捕獲されたにすぎず（近藤ほか，2002），何故厚岸町では道東の他地域同様に多くのモモジロ

コウモリが確認されないのか、今後その分布を詳しく調べる必要があると思われる。

調査地区全体の森林内ではウサギコウモリが最多被捕獲種であり、国有林のカラマツ林および日本製紙社有林の天然林ではコテングコウモリ、太田防風林ではチチブコウモリが最多被捕獲種であった。これについても調査地点を拡大し、最多被捕獲種が変わらないかどうか調査する必要があると考えられた。また、これまでの筆者らによる道東の調査では、ウサギコウモリが人家をねぐらとして利用していることが多かったが（近藤ほか，2002）、今回の調査では最も近い人家から 3-7km 離れた天然林、もしくは河畔林を伴ったカラマツ林で多く捕獲され、道東地区で本種は人家から天然林までと幅広く生活空間を利用していることがわかった。

チチブコウモリはかつてまれな種とされていたが（今泉，1960）、北海道、特に道東については当てはまらず（服部，1971；中川，1991；山鹿ほか，1999；近藤，未発表）、今回の調査でも、森林・防風林内では 4 番目に多く捕獲された種であった。

ヒメホオヒゲコウモリとホオヒゲコウモリの外部形態における識別は、阿部ほか（1994）の検索表では背中の上毛の色によって識別されるとしているが、色の識別で両者を分類するのは困難で、両種が生息している地域で生きた状態で放獣した場合は、ホオヒゲコウモリ属 *sp.*としたほうが良い（河合久仁子，私信）という意見もある。今回は、現地で夜間に放獣していることもあり、色に基づいて識別することは特に難しいと判断され、その示唆に従った。しかし、生きた状態でのヒメホオヒゲコウモリとホオヒゲコウモリの識別が困難ということは、現在両種とも環境省（1991）の絶滅危惧種に位置づけられ、標本にすることが法律上難しいことから、コウモリの分布に関する研究において致命的なことであり、分類のさらなる研究が望まれる。

テングコウモリは、北海道では南部で多く捕獲されているが（百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ，2001），道東地域では太田ほか（1973），前田・宇野（1996）によって既にその分布が確認されていた．本調査では2個体の捕獲を行い，また隣接する浜中町における調査では道東地域で初めて冬眠中の3個体を発見し（近藤、未発表），同地域で本種は通年分布していることが確認された．

A コウモリの飛来状況を BD1 で調べた結果，根室市教育委員会（2001）に示された結果同様に，街灯がない場所（PF 第一幹線林道）ではその反応が極めて少なかった．本種は街灯に集まる飛翔昆虫を好んで採餌する習性を持つと思われるが，街灯の多い厚岸市街地で飛来が少なく，このことがもともとの個体数が少ないことによるものなのか，街灯よりも好条件の採餌場所が付近にあることによるものなのか，より詳しい調査の必要性を感じた．

3種のコウモリが，人が利用していない建築物を利用することが明らかになった．このうちウサギコウモリは妊娠個体も捕獲され，この場所が繁殖場所として使われている可能性も示唆された．今回発見された建築物はすでに人によって使われていない廃屋であり，いずれ撤去も予想されるため，バットハウス設置などそこに住むコウモリの保護も今後考えていく必要があるだろう．

## 要約

コウモリ調査が，2002年5月から10月まで厚岸町で行われた．その結果，9種，すなわちモモジロコウモリ，ドーベントンコウモリ，ヒメホオヒゲコウモリ，カグヤコウモリ，キタクビワコウモリ，チチブコウモリ，ウサギコウモリ，テングコウモリおよびコテングコウモリの合計121個体が捕獲された．また未同定のホオヒゲコウモリ属 sp.20頭も捕獲された．捕獲され個体は，標識を付け放獣された．捕獲はできなかったが，ヤマコウモリおよび街灯に採餌に

くる A コウモリ（根室市教育委員会，2001）も確認された．厚岸町において新たにドーベントンコウモリ，キタクビワコウモリおよびテングコウモリの分布が確認された．森林地帯ではウサギコウモリ，川の水面上ではドーベントンコウモリが最も多く捕獲された．

## 謝辞

本報告をまとめるにあたりご指導いただいた奈良教育大学自然環境教育センターの前田喜四雄教授，ならびに三重県科学技術振興センターの佐野明博士に心より感謝する．また，荒井久和（厚岸町），澁谷辰生（厚岸町），澁谷千尋（厚岸町），酒井亜紀子（厚岸町），宮原かおり（釧路市），金子健（標茶町），久米学（函館市），涌井有希子（厚岸町），奥泉由利子（厚岸町），森岡泰三（厚岸町），森岡振一郎（厚岸町），草場浩平（札幌市），河合孝芳（厚岸町），伊賀智子（阿寒町），谷口美奈子（阿寒町），諏訪竜夫（札幌市），山本祥子（釧路市），佐々木尚子（江別市），野島智司（札幌市），中島宏章（札幌市），佐藤晶人（札幌市），高橋朋恵（厚岸町），高橋一史（厚岸町），堤本陽子（つくば市），森野華代（つくば市），平間裕介（釧路市）の各氏には，捕獲調査に対して大変お世話になった．これらの人たちに心よりお礼申し上げる．

## 参考文献

- 阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明．1994．日本の哺乳類．東海大学出版会,195pp.
- 服部睦作．1971．北海道産翼手目に関する研究．第1報 北海道産翼手目に関する研究史，生息地，および生息種．北海道立衛生研究所報,(21):68-100.
- Hutson,A.M. and P.A.Racey. 1999. Examining bats. In *Bat Workers' Manual*, 2<sup>nd</sup> ed. (Mitchell-Jones,A.J. and A.P.McLeish eds.),pp.39-45.Joint Nature Conservation Com

mittee.

百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ. 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告(1). 小樽市博物館紀要,(14):127-132.

今泉吉典. 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 東京, 196pp.

環境庁. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—. 324pp.

近藤憲久・アンドレイ クラスネンコ・芹澤裕二. 2002. 釧路東地区のコウモリ相. 根室市博物館開設準備,(16):15-22.

根室市教育委員会. 2001. 根室半島コウモリ類調査報告書. 根室市教育委員会,52pp.

前田喜四雄. 1973. 日本の哺乳類 (X I) 翼手目ヤマコウモリ属. 哺乳類科学,27: 1-28.

前田喜四雄. 1985. 北海道におけるウスリードーベントン *Myotis .daubentoni ussuriensis* O gnev,1927 の新産地と、外部及び頭骨形質の変異性. 哺乳動物学雑誌,10(3):159-164.

前田喜四雄. 1996. 日本産翼手目 (コウモリ類) の分類レビューと解説. 哺乳類科学,36(1): 1-23.

前田喜四雄. 1997. 日本産翼手目 (コウモリ類) の和名再検討. 哺乳類科学,36(2): 237-256.

前田喜四雄・川道美枝子. 1991. 斜里町における樹洞性コウモリ調査. 知床博物館研究報告,(12): 55-58.

前田喜四雄・川道美枝子・瀬川也寸子. 1993. 斜里町における樹洞性コウモリ調査 (1992). 知床博物館研究報告,(14):9-14.

前田喜四雄・宇野裕之. 1996. 北海道美幌町におけるコウモリ類の分布に関する研究 (1). 美幌博物館研究報告,(4): 33-40.

中川元. 1991. 知床博物館所蔵の翼手目標本について. 知床博物館研究報告,(12):53-54.

太田嘉四男・阿部永・小林恒明・大泰司紀之・前田喜四雄. 1973. J I B P 補充調査地, 置戸地域の動物相調査報告-I, 北海道北見置戸地区における鳥類および哺乳類群集調査報告.陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究, 昭和47年度研究報告.pp20

8-35.

佐藤雅彦・前田喜四雄・福井大・近藤憲久・柴田諭・井関健一・坂本里恵・宮本誠一郎.

2002. 道北北部の街灯に飛来する種不明コウモリの確認について. 利尻研究,(21):65-74.

山鹿百合子・斉藤理・八巻正宜. 1999. 北海道美幌町におけるコウモリ類の分布に関する

研究(3). 美幌博物館研究報告,(7): 61-70.

吉行瑞子・遠藤公男. 1972. 北海道日高山系の翼手類. 国立科学博物館専報,(5): 123-130.

表 1. 捕獲調査地の環境、網の大きさおよび枚数

Table 1. Environment of survey locations, the size and number of used mistnets capturing bats.

番号	調査地	環境	網の大きさおよび枚数
1	大別川大別川橋	水面（川幅6m）、およびハルニレ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ主体の二次林	3間2枚、5間1枚、テグス1枚
2	太田事業所旧車庫	広場、およびカラマツの植林地、ハルニレ、エゾマツ主体の河畔林	3間2枚、5間1枚、テグス1枚
3	ホマカイ川片無去橋	牧草地、ヤナギsp.、ハルニレ主体の二次林で囲まれた水面（川幅8m）	5間2枚
4	ピッチイ川河畔林	オニグルミ、ミズナラ、ハルニレ主体の河畔林、およびカラマツの植林地	3間4枚、5間4枚、テグス1枚
5	太田旧ミンク飼育場	イチイ、ケヤマハンノキ、ミズナラ主体の林からなる旧中庭	テグス1枚
6	トライベツ線林道	ハルニレ、ダケカンバ主体の二次林（一部天然林）、およびカラマツの植林地	3間5枚、テグス1枚
7	別寒辺牛川橋	別寒辺牛川の隣接したカヌー出発点、周囲はダケカンバ主体の一部天然林	なし
8	道有林21林班	トドマツ、ダケカンバ、センノキ、カツラ主体の天然林	3間3枚、5間2枚、テグス1枚
9	別寒辺牛橋河畔林	ヤチダモ、トドマツ、ハルニレ主体の天然林	3間2枚、5間2枚、テグス2枚
10	オッポロ一号橋	水面（川幅6m）、およびトドマツ、エゾマツ、イタヤカエデ主体の天然林	3間3枚、5間4枚、テグス1枚
11	道有林14林班	ヤチダモ、トドマツ、イタヤカエデ主体の天然林	5間3枚、テグス2枚
12	P F 第一幹線トライベツ川	湿地、およびヤナギsp.、ハルニレ主体の河畔林で囲まれた水面（川幅9m）	テグス1枚
13	道有林7林班	トドマツ、ダケカンバ、カツラ主体の天然林	3間2枚、5間3枚、テグス1枚
14	太田防風林 1	巾100mのハルニレ、ケヤマハンノキ主体の防風林（二次林）	テグス2枚
15	サツテベツ	ミズナラ、ケヤマハンノキ主体の二次林	3間2枚、5間2枚
16	太田防風林 2	巾106mのダケカンバ、ハルニレ、イタヤカエデ主体の防風林（天然林）	テグス1枚
17	旧トライベツ小中学校	草地に囲まれた廃校	なし

\* 番号：図 1 と対応：ハルニレ *Alnus davidiana*, ヤチダモ *Fraxinus mandshurica*, ケヤマハンノキ *Alnus hirsuta*, ラマツ *Larix leptolepis*,

エゾマツ *Pinus jezoensis*, ヤナギ sp. *Salix* sp., ダケカンバ *Betula ermani*, オニグルミ *Juglans mandshurica*, ミズナラ *Quercus mongolica*, イチイ

*Taxus cuspidata*, トドマツ *Abies sachalinensis*, センノキ *Kalopanax pictus*, カツラ *Cercidiphyllum japonicum*, タヤカエデ *Acer mono*; 種類：3間

3間巾のナイロン製の白カスミ網, 5間5件巾のナイロン製の白カスミ網, テグス3間巾のテグス製のカスミ網

表2. 岸野町におけるコウモリの捕獲数、および使用された網の枚数  
Table 2. The number of bats captured in Akkeshi town

調査地	月日	捕獲地点	ヒメオオヒコウモリ	トビヒコウモリ	モモジロコウモリ	ーベントンコウモリ	カタビコウモリ	チオプコウモリ	ウサギコウモリ	コチンコウモリ	チンクコウモリ	日別捕獲数	網枚数
			<i>Myotis ikonikovi</i> M. sp.										
			<i>M. macrodactylus</i> M. daubentonii										
			<i>Eptesicus nilssonii</i> <i>Barbastella leucomelas</i> <i>Plecotus auritus</i> <i>Mirina ussuriensis</i> <i>M. leucogaster</i>										
1	5・25	大別川大別川橋 (河川)				2						2	2
1	5・25	大別川河畔林 (林道)										0	2
2	7・13	本田事業所旧車庫 (家屋)					2		6			8	3
2	7・13	本田事業所 (林道)										0	1
3	8・10	ホマカイ川片無志橋 (河川)	1			23					1	25	2
4	8・11	別家辺牛ビチイ川河畔林 (林道)					4		1	5		10	5
5	8・18	本田田ミンク飼育場 (家屋)	1	4	3				2	2		1	1
6	8・23	トライベツ線林道 (林道)						1				12	6
7	8・31	別家辺牛川橋 (家屋)							10	1		1	0
8	8・31	道春林2林班 (林道)	3						1			14	6
9	9・1	別家辺牛橋河畔林 (林道)			2							3	6
10	9・7	オッポロ一号橋 (河川)			1	9						10	1
10	9・7	オッポロ一号橋 (林道)	4	2			1	3	2	5		17	7
11	9・8	道春林4林班 (林道)	3						7	1		11	5
12	9・13	PF第一幹線トライベツ川 (河川)				3						3	1
4	9・13	別家辺牛ビチイ川河畔林 (林道)							3	2		5	4
13	9・14	道春林7林班 (林道)	1	3		1			3		1	10	6
14	9・15	本田防風林1 (林道)										1	2
15	9・15	サツチベツ (林道)										0	4
16	10・12	本田防風林2 (林道)	4			38	4	13	35	16	2	141	65
		種別捕獲数	2	20	11	1	3	13	35	16	2	141	65

表 3. 距離1kmに対するバットディテクターの反応数（回/km）

Table 3. The number of reaction with the bat detector per kilometer

地域	調査区間	7月13日	8月23日
太田地区	道道厚岸標茶線2.5km	6.80	4.00
	走行距離22.7km	1.10	-
厚岸市街地	走行距離13.7km	0.07	0.15
PF第一幹線林道	走行距離12.8km	-	0.55

表 4. バットディテクターを用いたヤマコウモリの調査結果

Table 4. The observation of *Nyctalus aviator* with the bat detector

調 査 地	月日	個体数	初認	日没を基準とした時間
1 大別川大別川橋	5.25	0		
2 太田事業所	7.13	2	18:58	2分前
3 ホマカイ川片無去橋	8.1	0		
4 別寒辺牛ピッチィ川	8.11	1	18:29	2分前
8 道有林21林班	8.31	0		
10 オッポロー号橋	9.1	2	17:42	6分前
13 道有林7林班	9.14	0		
15 サッテベツ	9.15	0		

## Bat faunal survey in Akkeshi town , Hokkaido

Kondo N. <sup>1</sup>, H.Uno<sup>2</sup>, Y. Serizawa<sup>3</sup>, A. Krasnenko<sup>4</sup> and H.Hama

<sup>1</sup>Preparative office of Nemuro municipal museum, Nemuro board of education:209 Hanasakiminato,Nemuro,Hokkaido 087-0032,Japan

<sup>2</sup>Eastern Hokkaido wildlife research station, Hokkaido institute of environmental sciences:2-2-54 Urami,Kushiro,Hokkaido 085-8588,Japan

<sup>3</sup>Member of Dohtoh bat research group:2-22-17-206 Asino,Kushiro,Hokkaido 085-0061,Japan

<sup>4</sup>Member of Dohtoh bat research group:2-55 Meizi,Nemuro,Hokkaido 087-0003,Japan

<sup>5</sup>Member of Dohtoh bat research group:42-11 Sakuragaoka,Kushiro,Hokkaido 085-0805,Japan

### ABSTRACT

Faunal survey of bats in Akkeshi town was carried out between May and October 2002. One hundred twenty-one bats belonging to nine species, *Myotis macrodactylus* (Temminck,1840), *M.daubentonii* (Kuhl,1819), *M.ikonnikovi*(Ognev,1912), *M.frater* (Allen,1923), *Eptesicus nilssonii* (Keyserling and Blasius,1839), *Barbastella leucomelas* (Cretzschmar,1826), *Plecotus auritus* (Linnaeus,1758), *Murina leucogaster* ( Milne-Edwards,1872) , *M.ussuriensis* (Ognev,1913), and twenty unidentified bats belonged to *Myotis* were collected and marked with a metal bat ring before releasing. Except for the abovementioned nine species, *Nyctalus aviator* (Thomas,1911) and species A(Nemuro board of education,2001), were recognized by our observation and reaction of bat detector. The following three species are newly recorded from this town;*M. daubentonii*, *E.nilssonii* and *M. leucogaster*. *P. auritus* and *M. daubentonii* are the most commonest species in the forest and the river at Akkeshi town respectively.

**Key words:**Bat fauna,Akkeshi town

### 要約

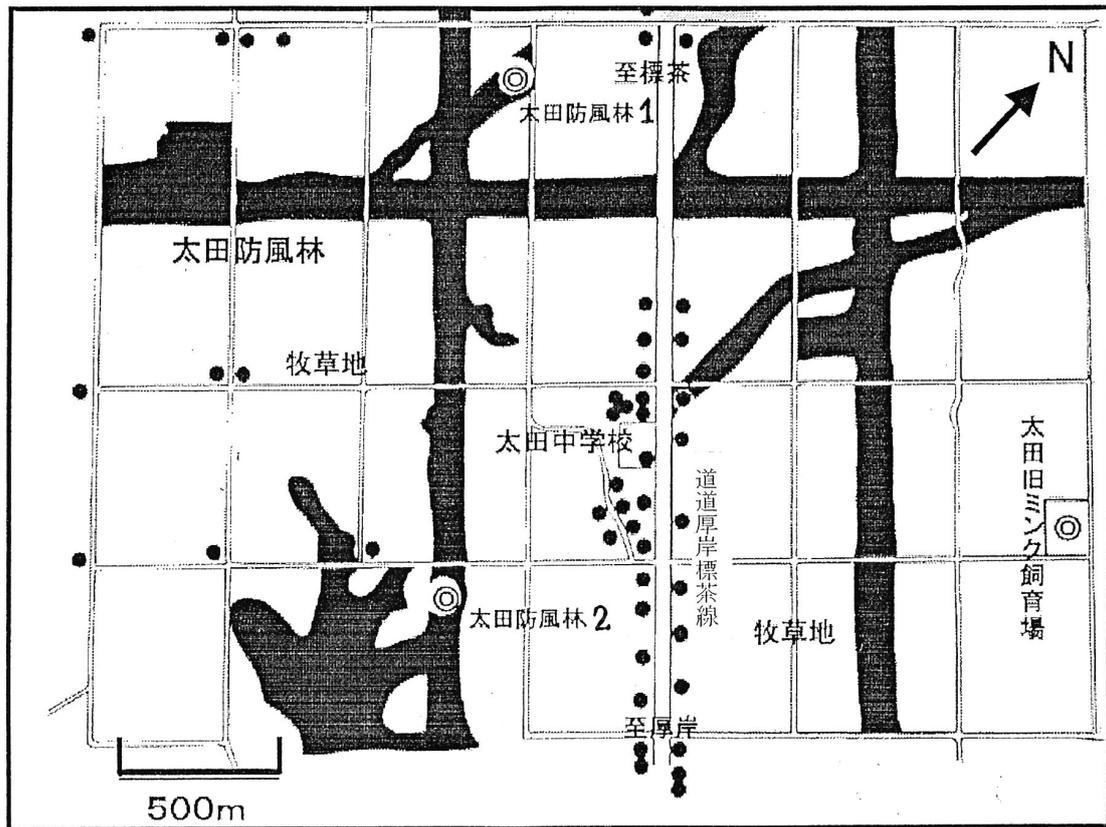
コウモリ調査が、2002年5月から10月まで厚岸町で行われた。その結果、9種、すなわちモモジロコウモリ、ドーベントンコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、キタクビワコウモリ、チチブコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、121個体が捕獲された。また未同定のホオヒゲコウモリ spp.20頭も捕獲された。捕獲した個体は、標識を付け放獣された。捕獲はできなかったが、ヤマコウモリの確認、および街灯に採餌にくるAコウモリ(根室市教育委員会,2001)を確認した。厚岸町において新たにドーベントンコウモリ、キタクビワコウモリ、およびテングコウモリの分布が

確認された。森林地帯ではウサギコウモリ，川の水面上ではドーベントンコウモリが最も多く捕獲された。



図 1 .調査地の位置 (図中の番号は表 1 と対応)

Fig.1.Site map (Number of figure was corresponded to Table 1)



- - 街灯  
Streetlight
- ◎ - 捕獲位置図  
Location where the bats were collected

図2.厚岸町太田地区における街灯の位置図

Fig. 2. Locations of streetlights at Ohta district in Akkeshi town.

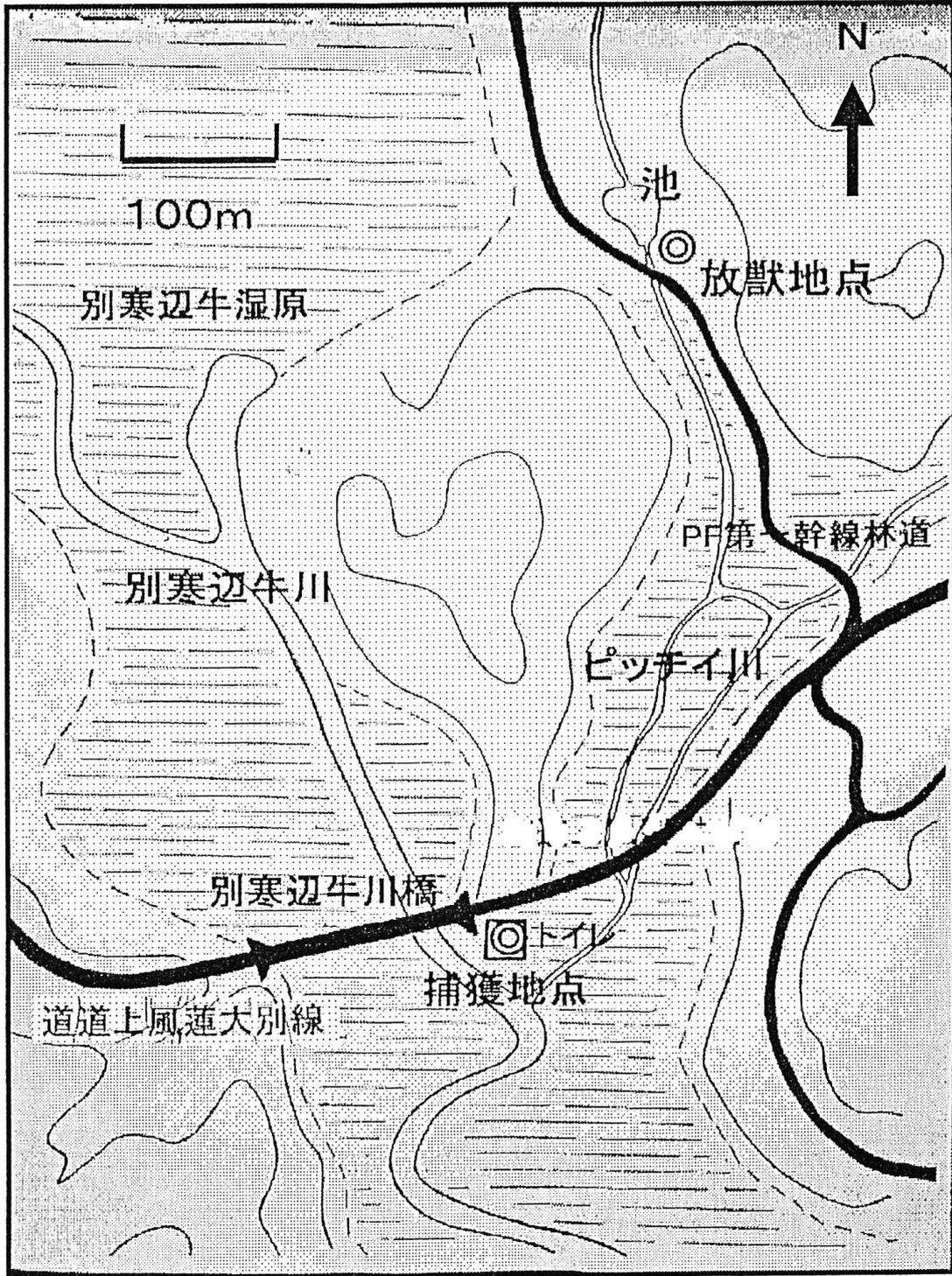


図3.捕獲したチチブコウモリの移動

Fig.3.Movement of *Barbastella leucomelas* with mark